

診療情報及び診療時に採取・保管された検体を用いた研究に関するお知らせ

愛知県がんセンター

愛知県がんセンターでの診療情報および診療時に採取・保管された検体を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究責任者	坂尾幸則
2. 研究課題名	Modified TLGによる右上葉気管支周囲リンパ節の画像診断に関する後ろ向き臨床研究
3. 研究の目的・方法	<p>原発性肺癌において、主腫瘍が5cm未満、すなわち臨床的T2b以下である場合、#12uリンパ節転移の有無にかかわらず外科切除の適応となるが、#12uリンパ節は右主肺動脈や右主気管支、上肺静脈に近接しており、リンパ節を郭清する際には出血などの術中合併症発生に注意を払いつつ腫瘍学的治療効果を確保するため、特に繊細な操作を要する。この部位の転移の有無によっては、腫瘍学的治療効果を確保するため、気管支形成、肺動脈形成、2葉切除、時には右肺全摘など高い侵襲を患者に課すこともあり、手術施行にあたって転移診断は非常に重要である。最新の知見では画像で見る腫瘍を3次元構築し、容積を基とした解析が有用であるとの報告が各癌腫で散見される。特に頭頸部領域での報告が多く、PETを利用したMetabolic tumor volume (MTV)やTotal Lesion Glycolysis (TLG)と呼ばれる指標が腫瘍の悪性度、リンパ節転移の予測因子、化学放射線治療後の予後因子として報告されている。本研究では、CTとPETを組み合わせることで術前診断における#12uリンパ節の転移の有無を解析し、腫瘍学的根治性を損なうことや患者に過大侵襲を課すことのないよう適切な術式を選択を行う根拠となるデータが得られるものと考えられる。</p> <p>研究期間:平成29年8月31日から平成31年8月1日 (遺伝子解析:行わない)</p>
4. 研究の対象となる方	2012/4/4～2016/9/30、当院呼吸器外科にて、肺癌に対する右肺上葉切除+リンパ節郭清をうけた患者さん。さらにその中で、当院もしくは東名古屋画像診断クリニックで造影剤を用いたhigh-resolution computed tomography (HRCT)と、東名古屋画像診断クリニックにてPET-CTを撮影された症例
5. 研究に用いる検体・情報の種類	診療情報内容(術前画像所見(CT, PET) 血液検査データ)

- ① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会、遺伝子解析研究倫理審査委員会などにおいて厳重に審査され、承認されています。
個人情報の安全保護については、万全の体制下にて管理され実施されます。
また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。
- ② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

★お問い合わせ★

愛知県がんセンター 中央病院臨床試験部試験支援室
倫理審査委員会事務局

住所 : 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

FAX : (052-764-2963)

e-mail: irb@aichi-cc.jp

(お問い合わせは、FAX、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)